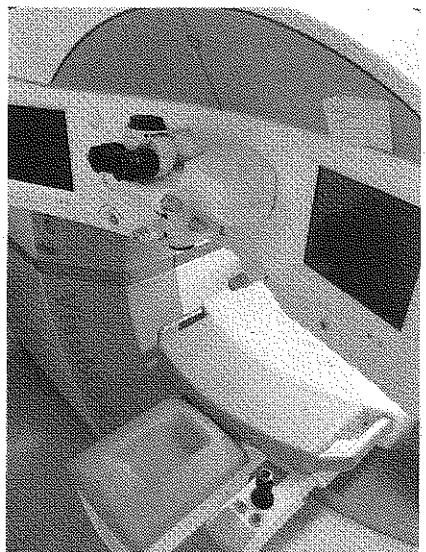


の状態と目は関連があるようだ。さらに、ドライアイであると睡眠の質が低下していることもわかった。ドライアイは目の症状だけでなく心や全身の状態とも関係することが明らかになっている。

2年前に「目と心の健康相談室」を立ち上げた、井上眼科病院名譽院長の若倉雅登医師は、いつまでも同じように見えると考え、自分の状態の「特性」を知ることが大事と話す。

「不調が加齢によるものなのか、経済状況の悪化による不安からきているのか。何が目を不調にしているのか、自ら考えて分析すべきなのです」(若倉医師)

見え方の変化は、目そのものに原因があるとは限らない。目から入つてくる膨大な情報整理する脳の「フィルター」は、加齢や病気によって変化し、見え方も変わる。目が見えていても、脳がぼんやりしてたらモノは見えていない。脳のフィルターが機能して



スマイルの本体。感染予防のため陰圧をかけ、レーザーで最適な環境を作るために室温24度前後、湿度20%前後を維持

薄くカットし、それを2、3ミリの切開創から引き抜く。

6年前に、日本でいち早くスマイルを導入した北里大学病院(相模原市)眼科の神谷和孝医師(医療衛生学部教授)は、この治療について次のように説明する。

「角膜を大きく切らないため、術後の痛みやゴロゴロした違和感が出にくい。また、涙の量を調整する神経のダメージが少ないので、かれ生じていたドライアイの合併症を起こしにくい」

さらに、レーシックでは何年か経つと近視に戻ることもあるが、スマイルではリバウンドはなく、安定し

「いいからだ。」  
「私の視力は1・2ですが、20年前と今とで見え方は違っています。逆光から人が歩ってきたときなどすぐにわからないことがある。これは余分な光を整備する脳の「フィルター」機能の低下によるものです」(同)

別の診療科で処方された薬が原因で、目のトラブルを引き起こすこともある。

例えば、若倉医師の元に眼瞼痙攣の治療に訪れた50歳の女性です。

「私は気をつけよう。自分が見えづらくなると、眠るために飲んでいたベンゾジアゼピン系の安定剤が原因だった。依存性の高い薬だが、初期だったため、離脱ができ、目の症状も改善したという。

ベンゾジアゼピン系の安

定剤は認知症を引き起こす

自分の状態に关心をもつこと。処方される薬剤も医者と一緒に考えていくくらいの気持ちで医者と向き合えば、治療のゴールもおのずかに明確になるだろう。

われがちだが、自ら勉強し、自分自身の状態に関心をもつこと。処方される薬剤も医者と一緒に考えていくくらいの気持ちで医者と向き合えば、治療のゴールもおのずかに明確になるだろう。

自分が見えづらくなると、眠るために飲んでいたベンゾジアゼピン系の安定剤が原因だった。依存性の高い薬だが、初期だったため、離脱でき、目の症状も改善したという。

ベンゾジアゼピン系の安

定剤は認知症を引き起こす

自分が見えづらくなると、眠るために飲んでいたベンゾジアゼピン系の安定剤が原因だった。依存性の高い薬だが、初期だったため、離脱でき、目の症状も改善したという。